

## 子どもを地域社会で支える・子どもの生きる力について

子どもや子育ての環境づくりについては、第3期区民会議で審議したテーマです。このことから、「子どもを地域で支える・子どもの生きる力を育む」で審議する具体的な内容については、次のように考えられます。

- 1 第3期区民会議で審議した内容をさらに深める
- 2 新しく審議する内容を検討する

### 第3期川崎区区民会議「子ども部会」提言

- 1 地域の人と子育て中の親が出会うための世代間交流プログラムの実施を提案します  
 地域の人が集う場所に気兼ねなく子育て中の親が訪れることができるために、区内の各施設等において、年1回以上世代間の交流プログラムを実施することが必要です。
  - 2 ころのつながりが必要な子どもを地域全体で支えるための環境整備を提案します  
 学校等に行くことができない児童・生徒及びその保護者への支援策について地域全体で理解を深め、対象者に必要な情報が円滑に伝わる環境の整備が必要です。
  - 3 自由に思いきり遊ぶための場所づくり・人材の育成を提案します  
 身近に自由に思い切り遊べる場所をつくとともに、普段から子どもと関わるプレリーダーを養成するための講座を開催するなど、人材の発掘、育成への取組が必要です。
  - 4 地域連携による健康出前講座の継続実施を提案します  
 地域で子どもの健康を推進するために、地域のボランティア、市民活動団体、企業、学校医等の連携により継続的に実施していくための仕組みの検討が必要です。
  - 5 カローリングを活用した世代間が交流する場の拡充を提案します  
 今後、取組を広めていくためには、地域のスポーツ関係・青少年関係の団体との協働で、地域毎にカローリングのルールなどを指導できる人材を育成することが必要です。
- ※6月17日、川中島中学校で「こどもも大人もみんな集まれ！カローリング大会」を実施しました。

### 参考 専門的な対応を要する複雑な課題

- 1 虐待  
 川崎市の児童虐待相談・通告件数は平成21年度751件、22年度1,047件でした。中でも川崎区は21年度217件（市内の28.9%）、22年度269件（同25.7%）という状況でした。
- 2 不登校  
 平成23年度、川崎市における不登校児童生徒数は小学校213人、中学校1,140人で、ともに前年度よりわずかに増加しています。中でも川崎区は小学校44人（市内の20.6%）、中学校299人（同26.2%）と市内で最も多い状況でした。
- 3 DV  
 川崎市の「男女平等に関する市民意識・実態調査」（平成18年度）によると、実際に配偶者や恋人から身体的・心理的な暴力を受けた経験がある（「現在受けている」「過去に受けたことがある」の合計）は、身体的暴力は女性が15.2%、男性が3.6%、精神的暴力は女性が15.2%、男性が11.0%と1割を超える女性が暴力のある生活を経験しています。年代別では、30代の女性が身体的暴力24.5%、精神的暴力19.7%と高い割合を占めています。
- 4 地域における育児環境の低下  
 外国人が多く、多様な文化的背景を持った親子が住んでいます。貧困から生活に困難を抱える家庭が多い。ひとり親家庭（22年度）川崎区1,221世帯（市内の36%）と最も多い状況でした。